

植物保護学特論演習Ⅰ (2単位)

担当者氏名 岡島秀治・小島弘昭・長島孝行

◆学習・教育目標

応用昆虫学を専攻する大学院生の研究活動支援プログラムである。研究テーマが院生一人一人異なることから、個人的な指導となることが多い。指導の主な内容は、①技術的サポート： 実験計画の立案，野外調査法，実験計画および実施法，日本語・英語による文章表現法（論文作成法），プレゼンテーション（学会発表）法など，②知識的サポート： 関連文献の紹介，研究内容の検討，論文作成の実践など。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

昆虫	害虫管理	資源利用と探索	昆虫利用学
昆虫生態学	昆虫生理学	昆虫形態学	昆虫分類学

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	実験計画の立案など（1～2週）	実験計画の立案および研究題目の決定などをサポートする	研究の目的や目標を整理しておく
2	調査法・実験法（期間中適宜）	実験計画に沿って行われる調査や実験の技術的サポートをする	研究目的に沿って調査・実験計画を立てておく
3	文章表現法（期間中適宜）	論文の作成に関連して日本語や英語の文章表現をサポートする	各自が書いた文章を校閲するので，準備しておく
4	プレゼンテーション法（期間中適宜）	学会発表を視野に入れて口頭発表の技術的サポートをする	学会での積極的な発表を期待する。
5	研究内容の検討（期間中適宜）	研究の進み具合とその内容を検討し，完成までのサポートをする	常に研究内容を整理しておき，教員が求めたときに示せるようにしておく。
6	これまでの総括（15週）	今後の研究方針などの中間チェック	研究の進展状況発表の準備

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

必要に応じ配布する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

必要が生じたときに紹介する

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート及び口述試験により評価する

◆その他受講上の注意事項

特になし